

平成 27 年度事業報告

平成 27 年度は定款 4 条に定められた事業を下記の通り実施いたしました。

本協会が実施している助成事業（演劇の関係者への助成金交付、海外研修者に対する助成、脚本家養成に対する助成）、普及事業（半額観劇会、学生対象の演劇教室）及び調査事業等の公的事業活動は充実し、演劇の振興と普及を図るという事業目的は達成いたしました。

I 助成事業

（1） 演劇関係者への助成金交付

演劇興行および演劇製作に寄与した団体または個人の功績をたたえ、表彰する助成金交付は、委員会の答申を受け、常務理事における審議の結果、本年度は下記の 3 氏と 1 団体が承認されました。表彰式は平成 28 年 3 月 15 日（火）午後 2 時から、東京プリンスホテルに理事、監事、委員出席のもと、大谷会長から各表彰者に助成金と賞状を贈呈いたしました。

（受賞者と授賞理由）

① 石川 耕士 殿

昭和 61 年のスーパー歌舞伎第一作「ヤマトタケル」より演出部として参加した後、スーパー歌舞伎第三作「オグリ」、「ご鬣鬣繫馬」以降の復活通し狂言など三代目市川猿之助の歌舞伎作品における脚本の補綴と演出を多く務められました。「加賀見山再岩藤」「伊達の十役」など猿之助四十八撰の制定に大きく寄与されました。

また、近年では四代目市川猿之助とも組み「金幣猿島郡」など三代目と共に創り上げた歌舞伎作品を、古典として次世代へ継承していくという功績を残されました。

ここにその功績を讃え、推薦するものです。

② 廣田 進 殿

フリーの舞台監督として数多くの作品に携わり、近年では帝国劇場公演を中心に活動し、「エリザベート」「モーツァルト！」等の大作ミュージカルで舞台監督を務められております。

舞台現場の統括責任者として数多くの公演を安全かつ円滑に進行させてこられました。演出家をはじめとするクリエイターからの信頼も厚く、後輩の指導育成にも力を入れており、長い時間をかけて蓄積された技術やノウハウは、これ

からも広く後進に受け継がれるものになるでしょう。

これまでの長年の功績を讃え、今後一層の活躍を願って推薦するものです。

③ 高橋 亜子 殿

脚本家、作詞家、訳詞家として数々の舞台・映画の脚本や翻訳ミュージカルの訳詞に取り組みられてきました。優れた作品を国内に紹介する活動に意欲を注ぎ続けておられます。

歌詞の意味合いや歌い手の心情を大切に、日本人のメンタリティーに合わせて観客に伝えようとするご努力は、日本の演劇界に大きな足跡を残してこられました。

ここにこれまでの功績を讃え、今後の一層の活躍を願って推薦するものです。

④ 松竹新喜劇 文芸部 殿

日本初の喜劇団、曾我廼家五郎十郎兄弟劇の伝統を受け継ぐ唯一の劇団である松竹新喜劇の上演作品の創作から補綴演出そして舞台進行まで幅広く手掛けてこられました。

上方喜劇の伝統を継承するのみならず、今を生きる喜劇づくりに意欲的に取り組まれており、日本の演劇界の発展に貴重な存在であります。

ここにその功績を讃え、推薦するものです。

(2) 海外研修への助成

本年度の海外研修は、昨年に引き続き研修志望者を募り、各自が日程、行動を事由に設定し、滞在中は各自が責任行動する方法で実施いたしました。協会は往復の航空運賃、宿泊費、観劇チケット代金を助成いたしました。

本年はニューヨークに 15 名、ロンドンに 1 名の計 16 名が参加いたしました。今年度で 26 年目となり、研修参加者の延べ人数は 489 名となりました。

(3) 新人脚本家養成のための助成

本年度は、「第 7 回脚本募集」の審査を終了し、入選作を決定いたしました。

【最優秀作・賞金 100 万円】

該当者なし

【優秀作・賞金 50 万円】

・時代劇部門「ガンバレ、高島屋」 篠崎 隆雄 殿

【佳作・賞金 20 万円】

・歌舞伎部門「夕霧奇譚紙衣道行」 篠崎 隆雄 殿

・ミュージカル部門「マイ ストーリー」 白木 利和 殿

- ・現代劇部門「肢のない鳥」 松永 尚三 殿
- ・時代劇部門「ぬばたま 一舜庵先生診察見立」 三谷 るみ 殿
- ・歌舞伎部門「運天鏡賽子」 山崎 赤絵 殿

平成 27 年 6 月 10 日（水）午後 3 時から、東京プリンスホテルに理事、監事、委員出席のもと、大谷会長から各入選者に賞金と賞状を贈呈いたしました。

また、今年度も引き続き「脚本家養成講座」を開講し、「初心者コース」5名、「中級コース」17名、「マスターコース」8名の計30名が受講いたしました。

通常の講義以外に、外部より講師を招いて特別講義を1回実施いたしました。

演劇の基盤を広げるためには優秀な脚本が求められます。演劇の脚本は一朝一夕に生まれるものではなく、長期的な養成が必要であります。継続して講座を維持してまいります。

II. 普及事業

(1) 半額観劇会

東京都、公益財団法人 東京都歴史文化財団、公益財団法人 都民劇場、大阪府、独立行政法人 日本芸術文化振興会、公益財団法人 名古屋市文化振興財団、公益財団法人 福岡市文化芸術振興財団と本協会とで共催している半額観劇会は、低価格で質の高い舞台芸術を鑑賞する機会を提供する事業として、都民、府民、市民から幅広く支持され、演劇人口の裾野を広げております。

本年度は、加盟 11 劇場と 1 社の協力を得て、東京地区 4 回、大阪地区 6 回、名古屋地区 3 回、福岡地区 6 回の合計 19 回実施いたしました。

東京地区	28,160 人	181,599,750 円
大阪地区	61,972 人	322,965,300 円
名古屋地区	6,853 人	40,220,150 円
<u>福岡地区</u>	<u>9,973 人</u>	<u>76,988,100 円</u>
合計	106,958 人	621,773,300 円

なお、平成 27 年 4 月、東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、公益財団法人 都民劇場、大阪府、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人名古屋市文化振興財団、公益財団法人福岡市文化芸術振興財団と本協会とは、普及事業に関わる協定書に調印いたしました。また、公益財団法人名古屋市文化振興財団、公益財団法人福岡市文化芸術振興財団と本協会とは、普及事業に関わる取り扱い手数料について覚書に調印いたしました。

(2) 学生対象の演劇教室

加盟劇場の観劇と組合せ、学生を対象とした演劇教室を開催し、若年層へ演劇の普及を行いました。

「学生のための歌舞伎教室」を、平成 27 年 9 月に京都南座（参加者 100 名）にて行いました。

「学生のためのミュージカル教室」を、平成 27 年 7 月に博多座（参加者 130 名）、11 月に帝国劇場（参加者 120 名）にて行いました。

III. 会報の発行

協会の事業及び情報の周知を図るため、会報 48 号、49 号を発行いたしました。会報は会員、賛助会員、所轄官庁、関係団体、演劇評論家、演劇記者、業界紙、舞台関係者等々に配布いたしました。

IV. 調査事業

ロンドン劇場協会が作成した加盟 51 劇場で実施された一年を通じたボックスオフィスデータの調査結果とロンドン劇場協会提携会員の 12 の準会員劇場の主要事項を内容としている「Box Office Data Report 2013」を入手し、演劇関係者の参考資料として翻訳、編集しました。

また、ぴあ株式会社が事業委託を受けて作成する「ライブエンターテインメント市場調査報告書」の調査・編集に協力しました。その報告書を入手し、加盟劇場と情報を共有いたしました。

報告事項

1. 一般社団法人 日本音楽著作権協会（JASRAC）との音楽著作権料に関する交渉を継続して行う。
2. 一般社団法人 700MHz 利用促進協会とワイアレスマイクの周波数帯域移行問題の交渉を継続して行う。
3. 監事の異動
平成 27 年 5 月 監事・大西昭一郎氏退任
平成 27 年 6 月 監事・安藤知史氏就任
4. 委員の異動
平成 27 年 4 月 大阪松竹座支配人・市村昌也氏就任、吉浦高志氏退任。
平成 27 年 11 月 新橋演舞場支配人・千田学氏就任、荒井康博氏退任。

5. 委員会の開催

協会加盟劇場の支配人を委員とする委員会は、協会の事業活動方針を審議するために、平成27年度は6月、9月、11月、3月の4回開催いたしました。

以 上